



も と は し つ う し ん

本橋通信

第51号
2024年11月

本橋Fαオフィス 電話:090-7909-2111/メール:rmotohashi0419@gmail.com

★★★この本橋通信は、私とご縁のあった方に差し上げている個人通信です★★★



ネットではなく、リアル(街)の〇屋へ行こう…



皆さまこんにちは。本橋通信第51号をお届けいたします。今月もどうぞ最後までお付き合いください。毎日毎日、暑い暑い…でしたが、漸く少し凌ぎやすくなりましたので、散歩に出ると予期せぬ情報が目から鼻から、足から入って来ます。近所の飲食店「さくら」は、10/10はジュウジュウでお好み焼きの日ですと、猛暑で売上減の挽回策と言わんばかりのイ〜ニオイ。鰻・焼き鳥…匂いビジネスの王道(ズルイ)戦略。季節も急に進んだような感じがします。この時期らしい定番の金木犀の香りは姿はなくとも存在感あり。そしていつものアイデアの泉「川沿いコース」で…何か硬いものを踏んでしまったと思うと、丸くて大きなドングリです。もう一気に秋に突入モードを感じ帰路の途中で、今度はグニャ&ガリツ…ちょっとげんなり銀杏のニオイです。秋と言えば「読書の秋」ですが、最近は、1ヶ月に1冊も本を読まない人の割合が6割超とも言われています。本を読まない人が増えているので、街から本屋さんがどんどん減っています。何気ない時間つぶしの立ち読みで思いがけない発見や良いアイデアも…という機会も無くなりつつあります。読書はしないけど、文字を追う時間は多いようです。これはスマホやPCでSNSの滞在時間が長いと



言われていますが、情報源の偏りと自分の考えに近い情報に囲まれ、都合のよい解釈へ…もっと言うと「思考停止」に陥ってしまいます。SNSはWEB書店ではないと思うのです。

折しも10/27〜は「読書週間」。この通信が届く頃、真っ只中(~11/9)でもありますし、スマホを置いて本屋に足を運び、気になる一冊を手に取りパラパラと…も良いかもです。

私も、まだまだ読みたい本を部屋のアチコチに積読(つんどく)したままなのですが、何となく新鮮な出会いがある気がして…。この秋も積極的に本屋へパトロールに出掛けます。



MFAO(Motohashi Financial Advisors Office)の本棚より



今月は、『池上彰が大切にしているタテの想像力とヨコの想像力』池上彰著(講談社+α新書)のご紹介です。TVでお馴染み「いい質問ですね〜」の池上さん曰く、「想像力が世界を救う」と始まり、この想像力には、ヨコ:自分ではない他者、ここではない場所、同じ時代を生きる/過去を生きた他者、身近な人から海外の人まで、横に広げて想像する力。タテ:今ではない時、未来の世界・将来の自分自身へと縦に繋げる想像力がある。実はこの発想、私の周りの方には多いかも…という印象。世の為人の為…自分だけでなく皆で幸せになる為には… 想像した未来に行き着く為に、今何をすべきか…未来から現在を振り返る視点は、人生にもビジネス(お仕事)にも非常に大切かと。今の日本社会は様々な観点で競争力を失いつつありますが、①日本人が想像力を伸ばせない7要因(何かあったらどーするんだ症候群、思考と行動のブレーキ他)は的確な指摘です。②仕事・人生を変えるヨコの想像力では、敢えて違うことをしてリミッターを外してみる、誰ひとり同じ考えの人はなし、多様性を知ると相手も自分も生きやすい…と、即トライする価値あり！③タテの想像力で未来を決めれば今が変わる！あったらイ内で思考の限界を外し、遊び心を意識して、他人がやらないことを敢えてやる、好きなものにトコトンはまる！おわりに…は、行き詰まったら「よそ見」をしよう！とあり、昔から日本企業のお家芸(地道な改善努力、前例主義やデータ重視)は、もう通用しない社会になりつつある今だからこそ、自分ではない他者(社)、ここではない場所、今ではない時に対し自由に思いを巡らせて寄り道や遠回り=決して無駄ではない「よそ見」もオススメですよ。



✍️ IFA (Independent Financial Advisor) 本橋の視点より ✍️

共同通信社さま経由にて、各地方新聞紙面「ライフセミナー」欄に掲載コラム：最近話題の「自社株買い」って？
2024年はこのテーマ、本当によく目にしました…。株主への還元、投資指標の向上云々かんぬんもありますが、
8月の日経平均急落での即断即決&高速買いは、多くの企業が自社の株価は割安だと思っている証拠かも…

Q. 最近、自社株買いの話題を目にしますが…

A. 自社株買いとは、上場企業が自らの手元資金を使って、株式市場で自社の株式を買い戻すことをいいます。
東京証券取引所による日本企業への資本効率改善の要請もあり、配当などと同じく株主還元策の一つとして注
目されています。日本企業の24年1～9月の自社株取得枠設定ベースの累計額は約12兆円を上回り、今年は
通年でも過去最高額を上回りそうだとの観測です。

企業にとって、自社株買いのインセンティブは何でしょうか？市場に出回る発行済株式数が減るため、利益額
が変わらなくても、一株当たり利益(EPS)は高くなります。つまり、株主にとって利益配分が増加するのです。
これはROE(株主資本利益率)の上昇やPER(株価)の低下を通じて、投資指標面での魅力度はアップします。
また、外部から買い占められる敵対的買収の防衛策として有効とされますが、後々自ら買い入れた「金庫株」の
戦略的な活用について説明責任が伴います。

様々な観点での比較検討を重ねた上で、実施される自社株買いには、自らの業績や経営戦略に最も精通する
経営陣からの「現在の株価は割安だ！」という自信が込められたアナウンスメント効果があるとされ、株価上昇



のシグナルとなりえます。日本企業では株価下落時に話題になりますが、経営陣による
企業価値(=株価)へのコミットメントがより強い海外企業でも自社株のインセンティブ
は同じです。(独立系ファイナンシャルアドバイザー 本橋竜一)

◆編集後記◆

コンフォート・ゾーン(居心地よい領域)から脱出せよ！

米投資ファンドKKR創業者の私の履歴書@日経は秀逸でした。若い頃の筆者はとにかく何でもやってみろ
と強制的にビジネスの野や海に放たれ、やってみたら何とかなった！勇気を持って、新しいアイデアを試せ＝
心地よい領域から出て挑戦せよ、たとえ失敗してもその教訓は後のビジネス(人生)にとっても大切だと…昔は
シャイ小僧・今は厚顔ヲヤジの私は全く共感！自分もまだまだ好奇心を失ってはいけない、節度を持って居
心地よい空間脱出はできるはず…と、少しだけ先読み、考え抜いて、少しだけ背伸びのビジネスに挑戦します。

◆今後本通信をご希望されない方は、お手数ですがお知らせ下さいますようお願い致します◆

【発行者プロフィール】

本橋 竜一(もとはし りゅういち)、1974年4月19日生まれ。東京郊外八王子の高尾在住。
早稲田大学卒業後、横浜銀行で金融マンとして社会人をスタートしました。その後、国内
(あおぞら銀行、みずほFG、三菱UFJ)、外資系(スイスUBS)金融機関にて、約15年間に
渡ってプライベートバンキング(ご資産家のお客さま専用金融サービス)を経験し、
ファイナンシャルアドバイザーとして独立開業。家族は妻、娘、息子の4人。



趣味はエンジョイゴルフ(スコア3桁でも緑の芝で気分爽快！)と読書(ジャンル無差別:乱読・積読?)

お客さまに対する想い:人生に専属のファイナンシャルアドバイザーがいる安心感を提供したい…

本橋FαオフィスWEBサイトは と検索！ <https://www.pfa-withyourlife.jp/>

皆さまからのご感想・ご要望をどんどんお寄せください。

➡ 本橋携帯:090-7909-2111 メール:information@pfa-withyourlife.jp